LArTPCによる宇宙線荷電反粒子 検出に向けた地上実験の現状

ICEPPシンポジウム 2023/2/19 谷口 日奈子

2/21

GRAMS (Gamma-Ray and AntiMatter survey) GRAMS (Gamma-Ray and AntiMatter survey) 気球搭載LArTPCを用いた宇宙線反粒子、MeV- γ 線の観測実験 @南極上空 40 km

□ 反粒子

Anti-Proton/Deuteron/Helium観測

暗黒物質間接探索

MeV-γ線
 from SNR/BH/中性子星/銀河中心
 重元素合成プロセスの解明
 暗黒物質間接探索



Collaborator

オホーツク海	AB MB BO SK ON CC
Japan	USA
- Hiroshima	- Barnard College
University	- Columbia University
- Kanagawa	- MIT *****
University	- NASA GSFC
- Osaka University	- Northeastern
- RIKEN	University
- Rikkyo University	- Oak Ridge National Lab
- University of Tokyo	- UT Arlington
- Waseda University	- ELTE
- Toyama University	- University Texas
7L-1 -21-3073	Arlington

5th collaboration meeting, June 2022



宇宙線反粒子の観測

反粒子種	観測器		
反陽子	AMS-02, PAMERA, BESS <mark>GAPS</mark> , <mark>GRAMS</mark>		
反重陽子	AMS-02, BESS <mark>GAPS</mark> , <mark>GRAMS</mark>		
反ヘリウム	AMS-02, BESS, (<mark>GAPS</mark> , <mark>GRAMS</mark>)		
陽電子	AMS-02, PAMERA, DAMPE		

□ BESS-Polar (超伝導磁石搭載 気球実験)

- 合計30日以上の南極フライト (2004/2007-08年)
- 反陽子 7886事象を観測
- 反重陽子、反ヘリウム(比)の上限値を算出

→ パイオニア的業績を残し終了



ロ AMS-02 (~完璧な粒子検出器 @ISS)



→ 運用中(さらなる結果に期待) □ GAPS(積層型Si(Li)検出器 + ToF)

- ToF+飛跡長から粒子質量識別
- エキゾチック原子からのX線&ハドロ ン群の検出から粒子-反粒子識別

→ 近年南極フライト実施予定



宇宙線反粒子フラックス

▶ 反陽子、陽電子は既に多くの気球・衛星実験で観測 → 2次生成(1次宇宙線+ISM)の宇宙線としてある程度理解



5/21

GRAMS検出器

- ▶ 長期間気球フライト(NASA or JAXAに依頼)
 ▶ 検出器の概念はGAPS実験を踏襲
- 2層のToFプラスチックシンチレータ
 荷電粒子が入射するとシンチレーション光が発生
 ・光信号 ⇒ β測定
- ▶ LArTPC = トラッキングカロリメータ
 荷電粒子とArが反応して電子・光が発生
 ・電子信号 ⇒ 二次元の位置情報
 ・光信号 ⇒ ドリフト時間の取得





GRAMS開発スケジュール

- 反粒子探索に向けたマイルストーン
 - □ 粒子-反粒子識別の実機検証
 - □ 加速器ビームを用いた粒子識別の定量化
 - □ 気球高度での液体アルゴン安定運用技術の確立



8/21

地上実験 -宇宙線µ粒子停止事象の検出-

- ➤GRAMS実験の検出器構成要素:LArTPCと二層のToFシンチレータ
 - →まずは地上での実機検証が必要
 - 1. ToF二層と液体シンチレータを用いた宇宙線µ粒子停止(崩壊)事象の観測試験
 - 2. LArTPCによる宇宙線µ粒子停止事象を用いた粒子反粒子識別試験
 - 3. LArTPC+ToF first step試験





ToF二層のfirst step試験

波形読み出し:DT5740^{10/21} (時間分解能: 16ns, 1ADC Count: 0.488mV)

➤ ToF二層のfirst step (w/ 液体シンチレータ)









製作期間:2022年2月-8月

製作開始時(クリーンルームの設置)



検出器設置用パーツ

波長変換材(TPB)を 塗布した反射材(ESR)

13/21

LArTPC

PMT

トップフランジ

ICEPPシンポジウム 2023 2/19

検出器設置後



Glass Epoxyの補強パーツ

➤ 宇宙線µ粒子のCapture, Decayを用いた飛跡による粒子反粒子識別の検証



検出器概略図

LArTPC試験

▶ 実験期間

- ・ 2022年10月4日 8日の5日間
- ・ 電場を変えながらデータを取得(100V/cm ~ 400V/cm)
- ▶ 信号読み出しエレクトロニクス
- ・ 光読み出し:FADC (SIS3316, 250 MS/s)
- ・電子読み出し:KEKから借りた液体アルゴン用ASIC
 (LTARS2014, 64 ch) → 詳細は次の発表







DAQ System, データ

▶ 約170万 eventの宇宙線µ粒子のデータを取得(µ Rate: 10Hz程度)



- ▶ チャンネル数 LTARS: 60ch FADC: 1ch(PMT)
- ≻ トリガー: PMT信号
- ▶ LTARSからEvent Number パルスをFADCに送り同期



80

60

40

20

> 観測したµ粒子1イベント(400V/cm)

XZ平面

100

150

200

250 30 X (mm)

50





観測したLArTPC中で停止する µ 粒子



→<u>LArTPCの電子信号とPMTの光信号</u>で宇宙線µ粒子Capture, Decayを観測

Decay, Capture識別能力の検証

今回使用したTPCにおけるDecay, Capture識別能力の検証を行う ・光信号解析でDecay/Captureイベント比を算出



μ⁻/μ⁺のDecayイベント について時定数関数Fit → Decay/Capture比を算出

N-(N+): μ-(μ+)の粒子数 τ_dec, τ_cap: 時定数

・飛跡によるイベント識別
 Event DisplayをEye Scanし、Decay/Captureイベント比を算出

18/21





飛跡によるDecay/Captureイベント比の算出^{ポジウム 2023 2/19} と光解析との比較結果





▶ 飛跡を用いたイベント識別方法

- 70,207 event分をeye scan
- Fiducial Volume(17 cm×17 cm×24 cm)内で 止まるもの
- Decay・Captureとそれ以外で識別

▶ イベント数の結果

	Decay N _{dec}	Capture N ⁻ _{cap}	$N_{dec}: N_{cap}^-$
Eye	243	169	$\mathbf{1:0.69\pm0.07}$
scan	event	event	
		(光解析結果	$1:0.68 \pm 0.05)$

→Decay/Captureのイベント比は 誤差の範囲内で一致



→ToFによるトラッキング領域にLArTPC飛跡がいることを確認

まとめと今後の展望

まとめ

➤GRAMS実験は宇宙線荷電反粒子の検出による暗黒物質探索と MeV 領域γ線の観測を目指した国際共同開発 気球・衛星実験である。

▶ 早稲田大学(地上)で以下の実機検証を行った。
 1. ToFによる液体シンチレータを用いた宇宙線µ粒子停止(崩壊)事象の観測試験
 2. LArTPCによる宇宙線µ粒子停止事象を用いた粒子反粒子識別試験
 3. LArTPC+ToF first step試験

今後の展望

ToF二層のトラッキング、β測定時技術の確立
 LArTPCによる宇宙線μ粒子を用いた粒子反粒子識別試験を踏まえて、
 J-PARCビームテストで反陽子ビームを用いた粒子反粒子識別に挑む
 小型気球を用いて液体アルゴン安定運用技術の確立試験に挑む

バックアップ



粒子	β	Rigidity (MeV/n)	Kinetic Energy (MeV)	Momentum (MeV/c)
p, p	0.5	150	150	570
d, d	0.5	150	300	1140

ToFシンチレータの加工

▶ 取り回しをよくするため、
 シンチレータを半分に切断し研磨し短化検証
 ▶ 手順:のこぎりで切断→紙やすり、ピカールで磨く



幅: 6cm、厚さ: 4cm 構成要素: プラスチックシンチレータ PMT(両端)



研磨したシンチレータの断面



切断側と切断してない側を 同じPMTで読んだ結果の光量分布



→使用可能と判断!

キャリブレーション試験

 ▶ 試験では波形データのみ取得するため、 ToFの位置-光量依存性を用いて キャリブレーション試験=ToF Position Scan
 ▶ 時間読み出し:TDC(時間分解能: 25ps)
 ▶ 波形読み出し:DT5740

(時間分解能: 16ns, 1ADC Count: 0.488mV)



[時間差dt from TDC vs 光量比LR from DT4740]



[光量比LRから算出した時間差dt分布]



→両端PMTの光量比LRを用いて、波形データから位置の特定ができるようにした (今回の解析では位置分解能:10[cm]程度)



▶ 読めなかったPMTは2個

▶ 光量分布の平均値はゲインキャリブレーションの値と相関があるため参考になりそう



光信号解析Fit関数

$$\begin{array}{|c|c|c|c|} \mu^{-} & \frac{dN^{-}}{dt} = -\left(\lambda_{dec} + \lambda_{cap}\right)N^{-}(t) \\ & \left(\lambda_{-} = \frac{1}{\tau_{-}} = \frac{1}{\tau_{dec}} + \frac{1}{\tau_{cap}}\right) \end{array} \qquad \mu^{+} & \frac{dN^{+}}{dt} = -\lambda_{+}N^{+}(t) \\ & \left(\lambda_{+} = \frac{1}{\tau_{+}} = \frac{1}{\tau_{dec}}\right) \end{array}$$

N-(N+): μ-(μ+)の粒子数 *τ*_dec(cap): decay(cap)時定数



光信号解析Fit関数



 N_{all} : 停止する全イベント数 \rightarrow Decay/Capture イベント比 f_+ : 停止するイベントのうち $\mu+$ の割合 $N_{dec}: N_{cap}^- = 1:0.68 \pm 0.05$

$$\int_{dec} = \frac{\frac{1}{\tau_{dec}}}{\frac{1}{\tau_{dec}} + \frac{1}{\tau_{cap}}} : \mu - 粒子のうち崩壊事象の割合$$









(รา) Z









X (mm)



250 300 Y (mm)

